◎実践報告◎

初等教育科における外国語・国際理解教育と外国文化研究会

初等教育科　八　幡　雅　彦

1．はじめに

ー初等教育科における外国語・国際理解教育の意義と目的ー

日本に在住する外国人の数が増加するに伴って日本の保育所、幼稚園、小学校に通う子どもの数も増加の一途をたどる今日、初等教育を専攻する学生たちに対する外国語・国際理解教育の重要性はますます高まりつつある。

平成20年に告示された『保育所保育指針』の第３章「保育の内容」においては「外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ」「子どもの国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮すること」が規定されており、それぞれの規定に関して同指針の解説書は「保育所の生活の中で、様々な国の遊びや歌などを取り入れたり、地球儀や世界地図を置いたり、簡単な外国語の言葉を紹介していくことも、子どもが様々な文化に親しむ上で大切なことです。異なる文化を持つ人との関わりをふかめていくことは子どもだけでなく保育士等にとっても重要であり、他文化共生の保育をこどもや保護者と共に実践していきたいものです。」「保育所では外国籍の子どもや様々な文化を持った子どもが共に生活しています。保育士等はそれぞれの持つ文化の多様性を尊重し、他文化共生の保育を勧めていくことが求められます。」と説明している。

さらに平成20年に告示された『幼稚園教育要領』の解説書においても「国際化の進展に伴い、幼稚園では外国人や海外から帰国した幼児の受け入れが多くなっている。・・・(中略)・・・これらの幼児の受け入れに当たっては、教師自身が、当該幼児が暮らしていた国の生活などに関心をもち、理解しようとする姿勢を保ち、１人一人の幼児の実情を把握し、その幼児が安心して自己を十分に発揮することができるよう配慮することが大切である。」との心がけの必要性が述べられている。

これらの指針、教育要領を十分に踏まえた上で初等教育科は人材育成に関する目的のひとつに「幅広い教養と国際感覚を身に付け、教育研究活動を協同的に展開していくことのできる人材を育成する」ということを掲げ、外国語及び国際理解教育を行っている。

2．外国語・国際理解に関する正規授業

現在、初等教育科で開講されている外国語及び国際理解に関する授業は、１年前後期の「英語Ａ・Ｂ」「韓国語Ⅰ・Ⅱ」、１年前期の「国際文化Ⅰ」である。平成27年度は「英語Ａ・Ｂ」に関しては八幡が担当した。小学校･幼稚園コース（１Ａ）については小学校教員採用試験を念頭に置き、TOEIC用を用いて読解力、リスニング力を高めるための授業を行った。保育・幼稚園コース（１Ｂ・Ｃ・Ｄ）に関しては保育英語に関するテキストを用いて、外国の園児とその保護者と簡単な英会話ができる英語力の習得と外国文化の理解を目指した授業を行った。そしてそれぞれのクラスの中で英語による子どもの歌やクリスマスソング、中国語をはじめとする簡単な外国語の紹介にも努めた。

「国際文化１」に関して、従来は韓国研修旅行のオリエンテーションであったが、平成27年度からは研修旅行をなくし教室の中で様々な国について学び国際理解を深めるという形に様変わりし、共に担当した山本裕一先生と相談を繰り返しながら、他の先生方や留学生にも特定の国に関する講義をお願いしながら授業を進めていった。おもな講義は、「大分県の保育所・幼稚園・小学校における英語教育」、「フランスの幼稚園と小学校」「アイルランドについて」（以上八幡）、「留学生と日本語」「もし世界が100人の村だった」「グリム童話」（以上山本先生）、「ヨルダンについて」（杉野寿子先生）、「オーストラリアの幼稚園」（高濱正文先生）、「スリランカについて」（別府大学大学院文学研究科博士後期課程１年スチッタ・グナセカラ君）などだった。

このようにいろいろな国に関する講義を聴いた後、学生たちはグループに分かれ、自分たちが関心のある国を取り上げ、それぞれの国の文化や社会について調べてプレゼンテーションを行った。学生たちが取り上げた国はアメリカ、韓国、イタリア、スウェーデン、シンガポール、モルディブ、リヒテンシュタイン等であった。

最後に授業の総仕上げとして、７月29日に学生たちは「別府大学日本語研修講座2015」に参加した台湾の学生たちと交流会を行った。この交流会では初等教育科の学生たちがパネルシアターを実演し、折り紙を台湾の学生たちに教え、最後は日本・台湾両国に関するクイズ大会を実施した。

学生たちが書いた授業レポートを読むと、「この世の中にはたくさんの国があり、生活の習慣があり、考え方があります。自分の知っている常識だけで生きていくだけじゃとてももったいないと感じ、もっとたくさんの国との交流をし、未知の世界を見てみたいと強く思いました。そして保育の現場でも今回得たものは役に立つと思います」「国際文化でたくさんの国について触れ、また台湾の学生たちと交流できたことはこれからの自分にとって大きな自信につながると思います。自分が保育者となった時に、外国の子どもがいたらその子が楽しく過ごせるような援助をしたいと思います」といった感想が寄せられ、学生たちの国際理解を促進する上で一定の役割は果たせたのではないかと思う。

３．外国文化研究会
ーキッズイングリッシュ、留学生たちとの交流ー

外国語をもっと学び、国際理解をさらに深めたいという学生たちのために平成27年４月より研究会活動のひとつとして外国文化研究会を発足させた。基本的には学生たちの希望を尊重しながら活動計画を立て、次のような活動を行った。

（１）５月20日（水）、別大附属幼稚園で手遊び、英語の歌、英語の絵本を通して園児たちと交流

手遊びの後、「ＡＢＣの歌」を歌い、「きらきら星」を日本語で歌った後、英語で歌った。そして英語の絵本 *Who's Behind Me?* の読み聞かせを行い、最後に「手をたたきましょう」を日本語と英語を交えて歌った。練習の成果は十分に発揮でき、園児たちの反応は上々だったが、「子どもたちをうまくほめることができなかった」「子どもたちのペースに乗せられて自分たちのペースを作れなかった」等の反省を学生たちは寄せた。この反省は12月の春木保育所での園児たちとの交流の際に生きた。

（２）６月３日（水）スリランカ人留学生たちとの交流

別科日本語課程に在籍するスリランカ人留学生たちと交流し、日本語と英語を交えて学生生活や将来の夢について語り合った。研究会の学生たちは夢を持つことと英語を勉強することの大切さ、そして国は違っても通じ合える共通点

があるということを学んだ。学生たちの主な感想は次の通りである。

「スリランカの学生たちは夢に向かってがんばっていることが話しを聴いているとよく伝わって来ました。英語を話すのは難しかったけれども、もっと英語の勉強をして少しでも上手に話せるようになりたいです」

「国は違っても何らかの共通点があるということを学びました。機会があればいろんな国の人たちと交流をして日本とつながる共通点を探していきたいです」

スリランカ人留学生たちとの交流

（3）6月8日（月）、別府大学国際交流会主催による料理会

別府大学文学部国際言語・文化学科に在籍する留学生たちが中心になって活動している別府大学国際交流会が主催する料理会に参加し韓国のトッポギとチヂミ、日本のお好み焼きと肉じゃがを作り、歓談しながら会食をした。研究会の学生たちは「他国の料理を食べることはあっても、そのの人たちと一緒に食べることはなかなかないので貴重な体験ができた」「会話はなかなか成立しなかったけれども、聞き取ろうという気持ちがあればなんとなく聞き取れると思った。相手の目を見て伝えたいことを伝えればいいことに気づいた」という感想を持った。

留学生たちと一緒に料理を作る

できあがった料理

（4）12月16日（水）、春木保育所で手遊び、英語の歌、英語の絵本を通して園児たちと交流

平成27年度後期になると、外国文化研究会は１Ａ２名、１Ｃ２名になり、これに大学の文学部人間関係学科３年の中国人留学生と日本人学生、そして国際経営学部２年の中国人留学生が加わった。

12月16日（水）にはこのメンバーで春木保育所を訪れ園児たちと交流をした。「はじまるよ」の手遊びの後、「ＡＢＣの歌」を歌い、「大きなくりの木下で」を日本語と英語で歌った。そして絵本『くまさん　くまさん　なにみてるの？』を日本語と英語を交えて読み、最後に英語で“Head – Shoulders – Knees – Toes – Knees - Toes”を歌った。園児たちも元気よく声を出し

て歌い、「楽しかった」「また来てね」と言ってくれた。

手遊び「はじまるよ」

「ＡＢＣの歌」

「大きなくりの木の下で」

絵本「くまさん　くまさん　なにみてるの」

"Head - Shoulders - Knees - Toes - Knees - Toes"

４．外国文化研究会の１年間の活動を振り返って学生たちの感想

外国文化研究会の１年間の活動を振り返って学生たちからは次のような感想が寄せられた。

１年Ｃクラス　興梠　百香

後期から新たにメンバーも増え、12月には春木保育所に行き子どもたちと一緒に英語の歌を歌ったり、絵本の読み聞かせをしましたが、子どもたちも積極的に参加してくれていてスムーズにいった部分と、私は絵本を担当しましたが、反応をいっぱいしてくれる分どこで切り上げて次のページに進むかなど迷った点もありました。また子どもたちは英語をよく知っているなと思わされました。今では保育園や幼稚園で英語を使った活動をしているところも多いと思うし、別府は国際交流も豊かなのでこれからも英語は重要なものだと思います。また今年一年を通して英語だけではなく、スリランカの方と交流をしたり、韓国の方と一緒に韓国料理と日本料理をお互い教えながら作ったりという活動もできました。普段はなかなか外国の方と接する機会がありませんが、外国文化研究会で様々な国の方と接してお話することができ異文化のことも知ることができ、勉強になりました。なにより英語を使って子どもたちと活動する際に、日本語とはまた違う子どもたちにとって分かりやすいように説明することの難しさを知りまし

た。今年一年の活動を活かして来年も頑張っていきたいです。

1年Cクラス　高木　千尋

①春木保育所の園児たちとの交流

私は今回、「大きなくりの木の下で」（日本語と英語）と「ABCの歌」を担当しました。別大附属幼稚園ではピアノを担当したのでまた違った緊張感で迎えることができました。最初は子どもたちの反応はどんな感じだろうとか、飽きられたらどうしようと考えていて全く余裕がありませんでした。しかし、子どもたちの笑顔を見てとても嬉しくなって、やっていることが楽しくなり自信につながりました。

改善点は、「大きなくりの木の下で」の英語の歌詞が子供たちにはちょっと難しすぎたかなということです。そこで、子どもたちでもわかるような単語の歌を探してできるといいなと思いました。また、簡単な動きを自分たちで考えて挑戦してみたいです。

分かったことは、子どもたちの笑顔のおかけでやりがいを感じられたこと、そして、失敗も次につなげるためには必要なことだということです。

②1年間を振り返って

外国文化研究会に入っていろんな経験ができました。最初の頃は英語が苦手で克服したいと思って入りました。今では、先生のおかげで英語が少しずつ好きになり、楽しくて、人を笑顔にするものだと思いました。簡単な単語だけでも相手に伝えたいという気持ちがあるだけで伝わることにも気づき、外国の方との会話が楽しく感じられるようになりました。これからも色んなことを吸収して外国の方とのコミュニケーションを大切にしていきたいです。

③今年の抱負

たくさんの外国の方とのコミュニケーションをとっていき去年とは違った交流ができたらいいなと思います。また、保育所に行き、去年の改善点を生かして学んだことを全部伝えていきたいです。色んなことを吸収してこれからの人生に生かしていけるようしっかり学んでいきたいです。

1年Aクラス　麻生めぐみ

12月に春木保育所に行って、初の経験ながら司会をさせてもらいました。どのような手遊びをすれば喜んでくれるのか、どんな感じにすれば盛り上がるのかとても不安でした。しかし子どもたちは、私たちの予想に反し、とても盛り上がりました。歌を歌う時、園児たちは「大きなくりの木の下で」はみんな知っている曲でしたが、"Head - Shoulders - Knees - Toes - Knees - Toes" は、テンポが難しいらしく、ついていける園児たちが少ないように感じました。テンポをもう少し遅くするとよいかなと思いました。そして絵本はみんなが問いかけに答えてくれるところがよいと思いました。ちゃんと答えていたので、すごいなあと思いました。今回はとてもいい勉強になりましたが、次に行く園では園児も一緒にできる英語のゲームもできたらいいなと思いました。八幡先生が言っていた「ビンゴ」などいいと思いました。

1年Aクラス　若杉　果林

12月の中旬に春木保育所を訪問しました。

園児の前で英語の絵本の読み聞かせをしたり英語の歌を一緒に歌ったりしました。子どもたちにとって英語の歌や絵本は難しくないか、興味を持ってもらえるのか… 訪問前は少し不安がありましたが、園児たちは私たちの発表を真剣に見てくれ、帰る前に「お姉ちゃんたち、お兄ちゃんたち、ありがとう！楽しかったよ！」と言ってくれ、とても喜びを感じました。

グローバル社会と言われ、外国の方との交流が盛んになっている現代社会において、小さい

頃から英語に触れることは非常に良いことだと思います。英語の歌や絵本を通して子どもたちが外国に興味を持つきっかけを作っていけたらと思います。

外国文化研究会では、中国や台湾、韓国など様々な国の人と交流することができます。これからも英語や外国の文化について勉強し、国境の壁を感じさせないくらい自然にコミュニケーションが取れるようになりたいです。

5．おわりに　ー今後の抱負ー

この１年間の初等教育科における外国語・国際理解教育と外国文化研究会の活動を振り返って、そして学生たちの感想を読んでみて、初等教育科の人材育成の目的のひとつである「幅広い教養と国際感覚を身につける」ということは多少なりとも達成できたのではないかと思う。しかしまだ全体的に浸透しているとは言い難い。

まず「英語A・B」の授業での工夫が求められる。この１年間は、１年Aクラスは小学校教員採用試験を念頭に置いた授業を行ったが、幼稚園教員を目指す学生たちもいるので、今後は両方に役立つ授業を行いたい。そしてAクラスからDクラスすべての授業においてもっと英会話を取り入れ、また外国文化や英語の童謡の紹介を通して学生たちが国際理解を深める工夫をしたい。「国際文化Ｉ」では、特定の国の専門家の講義や学生自身の調べ学習を通して、学生たちがさらに多くの国の社会と文化に習熟する機会を設けたい。外国文化研究会では留学生との交流の機会や保育所・幼稚園での英語の歌や絵本を通した園児たちとの交流の機会をさらに増やし、学生たちが外国に親しむようにしたい。